POLA ORBIS HOLDINGS

NEWS RELEASE

2026 年 11 月 26 日
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ポーラ ミュージアム アネックス

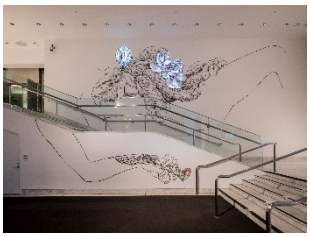
28 名のアーティストによるチャリティオークション

「Where Light Emerges」展

能登半島地震・熊本地震の復興支援を目的に、2027 年 1 月 8 日（金）より開催







ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、2027 年 1 月 8 日（金）から 1 月 24 日（日）まで、チャリティ企画「Where Light Emerges」を開催します。

本チャリティオークションは、2020 年のコロナ禍に、医療従事者の方々に対して私たちが「今できること」は何かと考え、スタートしました。以降、毎年、社会情勢やその時々の心境を反映したテーマと支援先を設定し、今年で 7 回目を迎えます。毎年楽しみにしてくださるお客さまとの輪も広がり、これまでの累計寄付総額は 1 億円を突破し、計 104,096,415 円を NGO 等の団体や災害義援金へ寄付しました。

これまでも能登半島地震の被災地支援を行ってまいりました。その中で、現地や日本赤十字社へのヒアリングを通じ、復旧が進む一方で、生活再建に伴う不安や疲労、喪失感に寄り添う「こころのケア」など、継続的な支援が今なお必要であることを改めて認識しています。また、2026 年に発生した熊本地震の影響も踏まえ、被災地の状況に寄り添った柔軟な支援を行いたいという思いから、今年は能登地域と熊本県の両方を支援先としています。

私たちは、この困難な状況の先にある物事が良い方向に向かっていく兆しを意味する「曙光（しょこう）」を今年のテーマにして、「Where Light Emerges」展と題し、企画展を開催します。

本展では、賛同いただいた 28 名のアーティストが各 1 点、テーマをもとにオリジナル作品を制作します。作品は、展示会場でご覧いただけるとともに、サイレントオークション形式※でオンラインにてご入札いただけます。またドローイング作品の抽選販売も行います。オークション作品およびドローイングの販売収益は全額、日本赤十字社を通じ能登地域・熊本県の復興支援へ寄付を予定しています。（入札及び抽選販売サイトは 2027 年 1 月 8 日にオープン予定）

アーティストたちがそれぞれの視点で表現した多様な「曙光」が、困難な状況の先にある明るい兆しとして、未来へ向かう希望をそっと届けてくれることを願っております。ぜひこの機会に、会場およびオンラインにてご参加ください。

※サイレントオークションとは、競りは行わず入札のみ行い、期間中に最高額をつけた方が落札者となる形式です。

出展作家 （五十音順）

イイノナホ、今井昌代、入江早耶、岩田俊彦、柏原由佳、鬼頭健吾、黒田恵枝、スクリプカリウ落合安奈、鈴木のぞみ、鈴木ヒラク、竹村京、舘鼻則孝、束芋、津上みゆき、中村弘峰、中村萌、流麻二果、西島雄志、野口哲哉、林樹里、ヒグチユウコ、福井利佐、増田セバスチャン、水野里奈、ミヤケマイ、 横溝美由紀、Ryu Itadani、渡辺おさむ

展覧会概要

展覧会名　チャリティオークション「Where Light Emerges」展
会　　期　2027 年 1 月 8 日（金）- 1 月 24 日（日） ※会期中無休
時間・料金　11:00 - 19:00 (入場は 18:30 まで)、入場無料
会　　場　ポーラ ミュージアム アネックス（〒104-0061 中央区銀座 1-7-7 ポーラ銀座ビル 3 階）
主　　催　株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
オークション入札およびドローイング抽選サイトの公開期間：1 月 8 日（金）11:00～1 月 25 日（月）9:59 まで

※状況により変更になる場合がございます。ギャラリーHP（https://www.po-holdings.co.jp/m-annex/）で最新情報をご確認の上、ご来館いただきますようお願い申し上げます。

冒頭作品（左より）：ヒグチユウコ「はながさく」2025年 和紙、ペン、水彩、糸、綿 /スクリプカリウ落合安奈「山の心音」2026年 発色現像方式印画 /中村萌「From Within」2025年 楠、油絵具
西島雄志「環 -吉祥-」2025年 銅（ニッケルメッキ）、ステンレス /束芋「flow-wer arrangement」2017年 ビデオインスタレーション©Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi 撮影 watsonstudio
※掲載作品は一部を除き、過去の参考作品です。本展では各作家の新作を展示予定です。

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】（株）ポーラ・オルビスホールディングス　広報室
広報担当　Tel 03-3563-5540／Mail webmaster@po-holdings.co.jp
【お客様お問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス　Tel 050-5541-8600（ハローダイヤル）

作家プロフィール （五十音順）

※掲載作品は一部を除き、過去の参考作品です。本展では各作家の新作を展示予定です。

イイノナホ Naho Iino

1967年、北海道洞爺湖温泉町に生まれ、東京・四谷で育つ。
武蔵野美術大学造形学部彫刻学科を卒業後、シアトルのピルチャック・グラス・スクールで学ぶ。
ガラスの中に広がる光や色彩、その奥にある静かな時間と空間に魅了され、探求を続けている。
吹きガラスやガラス鋳造による彫刻、茶道具、照明作品などを制作。

国内外で作品を発表するほか、住宅や店舗、美術館など、建築空間のためのアートワークも数多く手がける。

https://www.naho-glass.com/



「その曙光の音」 2026
ガラス

今井昌代 Masayo Imai

テディベア・ぬいぐるみ作家。
1999年より制作を始め、球体関節のあるテディベアや布形状フェルトを使ったぬいぐるみを発表。
絵本『ギュスターヴくん』（白泉社）にぬいぐるみ制作で参加。
著書『Teddy Bear Works Imai Masayo』（ボリス文庫）

https://www.instagram.com/uritouran



「Quelque chose germe」 2025
モヘア、フェルト、ハードボードジョイント、化繊わた、ベレット、他

入江早耶 Saya Irie

1983年、岡山県生まれ。
2009年広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了。

二次元のイメージを消しゴムで消し、そのカスを素材として立体作品へと変換する独自の手法を展開。掛け軸のなかに描かれた観音像を立体化した作品など、既存の図像に対する異化的なアプローチを通して、現代における「表象と物質」の関係を再考させる。ユーモアを交えつつ、視覚文化における記憶や信仰のあり方を問い直す実践を続けている。

主な展示に2027 年「美術探鳥」（広島市現代美術館）、2026年「フリーズ・ソウル」（COEX、ソウル、韓国）、2025年個展「カガヤク日常ノ微塵」（東京画廊）、2023年 個展「デイリーモニュメント」（国際芸術センター青森）。2024年ASPレジデンスプログラム（ジョグジャカルタ、インドネシア）、2023年International Studio & Curatorial Program（ニューヨーク、アメリカ）などAIRにも力を入れている。2019年公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ニューヨーク、アメリカ）。

https://www.sayairie.com



「バードダスト（カナリアとケージバード）」 2025
博物画、消しゴムのカス、樹脂粘土

岩田俊彦 Toshihiko Iwata

1970年神奈川県生まれ。
1999年東京藝術大学美術学部工芸科漆芸専攻卒業。
漆を生き物と捉え、対話をしながら完成へと導かれるダイアローグシリーズなどの
伝統技法に捉われない作品表現を模索している。

2023年から2024年にはフォーシーズンズホテル大阪における大型平面作品を制作。
主な展覧会に「Japanese Antiques」（2026年 mouseion / 大阪）、「THE SOUND OF SILENCE,THINGS AS THEY ARE」（2026年 YEARL YPLAN/上海）、「暮 / Eventite」
（2025年 罐空間 / 台北）などがある。

https://www.instagram.com/iwata_toshihiko



「ダイアログシリーズ 「object」」 2026
漆、亜麻布、他

柏原由佳　Yuka Kashihara

1980年広島県生まれ。武蔵野美術大学で日本画を学んだ後、2006年渡独。
2013年ライプツィヒ視覚芸術アカデミー修士課程卒業、2015年同アカデミーマイスターシューラー号取得。2022年日本帰国、東京にて制作。

日本画のように薄く溶いた油絵の具と、テンペラ絵具、アクリル絵具を用いた深い色彩により、透明性と濃密さが共存した生命力溢れる作品世界をつくりあげている。

2012年にVOCA展に出展、佳作賞と大原美術館賞を受賞。主な個展に「最初の島 再後の山」（2016年、大原美術館）、「Polar Green」（2019年、小山登美夫ギャラリー）、「1:1」（2021年、ポーラ ミュージアム アネックス）、「Pile of Signs -しるし、徴」（2024年、小山登美夫ギャラリー 前橋）「Stardust」Acquavella Galleries Palm Beach、（2025年、アクアベラギャラリー、アメリカ、フロリダ）、「Changing in the Light - 光のなかで変わる」（2025年、小山登美夫ギャラリー京橋、東京）「山、水の上を歩く」(2026年、東福寺塔頭 光明院）

http://tomiokoyamagallery.com/artists/yuka-kashihara/



「はじまり」 2025
油絵具、キャンバス

鬼頭健吾　Kengo Kito

1977年愛知県生まれ。
京都芸術大学大学院教授。
2001年名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業後、
2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了。
主なグループ展に「六本木クロッシング2007：未来への脈動」（2007年、森美術館）、「アーティスト・ファイル」（2011年、国立新美術館）、「Mono No Aware」（2013年、エルミタージュ美術館）、「ギホウのヒミツ」（2019年、高松市美術館）、「色と感情」（2022年、ポーラ ミュージアム アネックス）、第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展コラテラル展示（2025年、ヴェネチア国立考古学博物館）など。

主な個展に「Multiple Star I, II, III」（2017年、原美術館ARC）、「Full Lightness」（2020年、京都市京セラ美術館）、「Reconnecting」（2021年、Japan House LA）、「Unity on the Hudson」（2023年、Hudson River Museum, NY）など。

2008年に五島記念文化賞を受賞。
ニューヨークに1年滞在し、その後ドイツ・ベルリンにて制作活動。
フラフープやパラソルなど、工業製品を空間に充満させることにより作品化したり、近年は布や鏡などを建物の構造や自然および人工の光といった環境に接続、干渉する作品を発表している。
ありふれた日常のもので現代社会を軽やかに批評する作家として国内外から高い評価を受ける。

https://kengokito.com/



「cartwheel galaxy」2025
キャンバスにアクリル、ガラス、スプレー

黒田恵枝　Yoshie Kuroda

1987年福岡生まれ。2010年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科情報芸術コース卒業。
廃棄衣類を主な素材として、ぬいぐるみや人形、彫刻などの立体造形の概念を横断する創作形態に取り組み、空想の生き物である「もけもけもの」を継続して制作、及びそれらを用いたインスタレーションや写真作品等を発表している。

2023年には公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員としてドイツにて研修を行う。主な展覧会に、個展「Blooming」(ISETAN Gallery、東京/2025)、「ポーラ ミュージアム アネックス展 −存在の境界−」(ポーラ ミュージアム アネックス、東京/2026)など。

https://www.yoshie-kuroda.com/



「No.412 もけもけもの」2025
使われなくなった衣類、糸、綿、木材

スクリプカリウ落合安奈　Ana Scripcariu-Ochiai

1992年埼玉県生まれ。
東京藝術大学油画専攻を首席、美術学部総代で卒業。
同大学大学院博士課程修了。同大学油画専攻非常勤講師。

日本とルーマニアの2つの母国を持ち、「土地と人の結びつき」をテーマに写真、絵画、インスタレーションなど多角的な作品を制作。2026年に初の写真集『ひ か り の う つ わ』（赤々社）を刊行。

主なパブリック・コレクションに東京都写真美術館、埼玉県立近代美術館など。福岡市美術館(2025)、上野の森美術館(2025)、ルーマニア国立現代美術館(2020)、東京都美術館(2019)、シャンボール城(フランス/2018)など国内外で発表。主な受賞にForbes 30 UNDER 30 JAPAN、TERRADA ART AWARD 鷲田めるろ賞など。令和4年度ポーラ美術振興財団在外研修員。

https://www.ana-s-ochiai.com/



「山の心音」2026
発色現像方式印画

鈴木のぞみ　Nozomi Suzuki

1983年埼玉県生まれ。
2007年東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻卒業。
2015年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。
2022年、同大学院博士後期課程修了。
写真の原理を通して事物に宿る記憶の顕在化を試みている。
2025年「第41回写真の町東川賞」新人作家賞受賞。
2018年度ポーラ美術振興財団在外研修員（イギリス）。
2016年「VOCA展2016 現代美術の展望 ―新しい平面の作家たち」VOCA奨励賞受賞。
主な個展に「Looking Through Glass｜ガラス越しの眼差し」東條會館写真研究所（東京、2026年）、「Slow Glass－The Mirror, the Window, and the Door」ポーラ ミュージアム アネックス（東京、2025年）、「HIRAKU Project Vol.16 鈴木のぞみ 『The Mirror, the Window, and the Telescope』」ポーラ美術館 アトリウム ギャラリー（神奈川、2024年）がある他、「潜在景色」アーツ前橋（群馬、2022年）、「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」東京都写真美術館（2017年）、「NEW VISION SAITAMA 5 迫り出す身体」埼玉県立近代美術館（2016年）などのグループ展に参加。
2022年、作品集『LIGHT OF OTHER DAYS』（rin art association）を刊行。
作品は東京都写真美術館、アーツ前橋などに収蔵されている。

http://nozomisuzuki.com/



「Light of Other Days :
吉田理容室壁に設えた大きな3枚の鏡」2022
解体された理容所の鏡、写真乳剤、木材、乳白ガラス

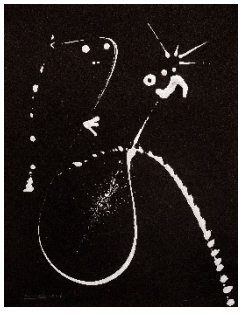
鈴木ヒラク　Hiraku Suzuki

1978年生まれ、2008年東京藝術大学大学院修了。
絵と言語のあいだを主題に、平面・彫刻・映像・インスタレーション・パフォーマンス等により、ドローイングの概念を拡張する制作活動を展開している。

主な個展に「海と記号」ポーラ ミュージアム アネックス（東京、2025年）、「今日の発掘」群馬県立近代美術館（群馬、2023年）、主なグループ展に「In Praise of the Line」La Fab（パリ、2026年）、「MOTアニュアル2019 Echo after Echo：仮の声、新しい影」東京都現代美術館（東京、2019年）、「Very Addictive」銀川現代美術館（銀川、中国、2016年）、「ソンエリュミエール、そして叡智」金沢21世紀美術館（石川、2012年）、「六本木クロッシング 2010展:芸術は可能か？」森美術館（東京、2010年）などがある。

音楽家や詩人らとのコラボレーションやパブリックアートも多数手がける。
作品集に『SILVER MARKER―Drawing as Excavating』（HeHe、2020年）など、著書に『ドローイング 点・線・面からチューブへ』（左右社、2023年）がある。

http://hirakusuzuki.com/



「Untitled (Silver on Black) #075」2026
シルバーインク、紙

竹村京　Kei Takemura

1975年東京生まれ、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。
同大学大学院美術研究科修了後、ドイツ・ベルリンでの留学を経て滞在。
現在は高崎で制作活動を行なっている。

竹村は主に写真やドローイングの上に絹糸の刺繍を施した布を重ねたインスタレーションを発表している。この刺繍による行為は、竹村が「仮に…」という状態を生み出すことの試みであり、竹村がかつて家族で暮らした家、親しい間柄にある人につながる記憶や時間、失われたものを具体的な存在として再構築する作業でもある。また壊れた食器や日用品を用いた「修復シリーズ」の制作でも知られている。

主な展覧会に「セカイノコトワリ」（2025年、京都近代美術館）、「Before/After」（2023年、広島市現代美術館）、「ホーム・スイート・ホーム」（2023年、国立国際美術館）、「ヨコハマトリエンナーレ2020」（2020年、横浜美術館）がある。

https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/4171/



「S.M. と復活したケヤキ」2025
桐ダンスの破片、釜糸、雁皮紙、膠液、クレヨン、水彩絵具、絹オーガンジー

舘鼻則孝　Noritaka Tatehana

1985年東京都生まれ。
東京藝術大学で染織を専攻。
レディー・ガガの履くヒールレスシューズの作者として知られる。
過去の日本文化を見直し、現代的に再定義することで制作される作品は、独自の視点と世界観を持つ。
近年は絵画も制作し、伝統工芸士との創作活動にも精力的に取り組む。
メトロポリタン美術館（ニューヨーク・アメリカ）や、ヴィクトリア＆アルバート博物館（ロンドン・イギリス）に作品が永久収蔵されている。

https://www.noritakatatehana.com

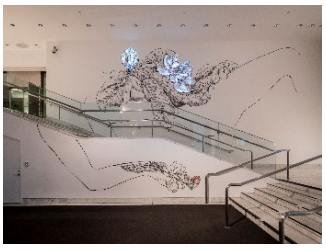


「スピニングトップ「サンダークラウド」」2025
手捻み型染め和紙、樺

束芋　Tabaimo

現代美術作家。手描きアニメーションを用いたインスタレーションで、日常に潜む不穏をシュールに描き出す。1999年デビュー、2011年ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表。舞台制作や他ジャンルとの共作を経て、近年は、自身の記憶や身近な物質がまとう時間をテーマに制作を続けている。

https://gallerykoyanagi.com/artists/tabaimo_jp/



「flow-wer arrangement」　2017
ビデオインスタレーション©Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi　撮影 watsonstudio

津上みゆき　Miyuki Tsugami

1973年東京に生まれ大阪に育つ。
京都芸術大学大学院修了。
作品タイトルに冠している “View” は「みえるもの」「眺め」と「みること」「見方」の両義を示す。
人がどのように外の世界を自分の世界として捉え、自身の視点から尺度や価値観を構築していくのか、観察し描く日々のスケッチを通して現代における風景画の制作に取り組んでいる事に由来する。
主な個展：2005年大原美術館（岡山）、2013年一宮市三岸節子記念美術館（愛知）、2015年ドミニカナークロスター・プレンツラウ（ドイツ）、2018年上野の森美術館ギャラリー（東京）、2019年長崎県美術館。
このほか台北市立美術館（台湾）、アーティゾン美術館（東京）でのグループ展に参加。
主なコレクション：アーティゾン美術館、大原美術館、国立国際美術館（大阪）、東京国立近代美術館、長崎県美術館。

https://miyukitsugami.jp/



「View, A Cherry Tree, 2:52pm 11 March 2026」2026
顔料、アクリル、その他、キャンバス

中村弘峰　Hiromine Nakamura

1986年福岡県生まれ。
100年以上続く人形師の家系の四代目として生まれ、東京藝術大学大学院を修了後、家業を引き継ぎながら新たな作品を発表している。
従来の概念に囚われずに制作される作品は、緻密かつ斬新で、見るものの目を奪う。
2023年に福岡県文化賞受賞（奨励部門）、第70回日本伝統工芸展にて朝日新聞社賞受賞、2024年にはスイスのミケランジェロ財団がヴェネツィアで主催する国際的な工芸の祭典「HOMO FABER」に選出、2025年福岡市文化賞受賞、2026年はヴェネツィアビエンナーレ公式サテライト展に参加など国内外で活動の幅を広げている。

https://www.nakamura-ningyo.com/



「早蕨スパイカー」 2025
木パネル、顔料、白金箔

中村萌　Moe Nakamura

1988年東京生まれ。
2012年に女子美術大学大学院美術研究科を修了。
楠に油絵具で彩色した作品を特徴としており、木という素材の中から、自身が求める形を探り当てるように彫り出していく。
また、絵画と彫刻を横断的に取り組みながら、最近では、楠の板を使った平面作品へも精力的に取り組んでいる。
国内外で継続して多くの作品を発表し、活躍の幅を広げている。

近年の主な個展に「connect connect」（2025年、ポーラ ミュージアム アネックス）、「whisper whisper」（2025年、ギャラリー椿）、「Like a Garden, Like a Home」（2023年、ギャラリー椿）、「Like a Garden」（2023年、銀座 蔦屋書店）、「before the dawn」（2022年、銀座 蔦屋書店）、「our whereabouts - 私たちの行方 -」（2021年、ポーラ ミュージアム アネックス）、「inside us」（2021年、ギャラリー椿）、「GROWTH」（2020年、華山1914文化創意産業園区）など。

https://www.moe-nakamura.com/



「From Within」2025
楠、油絵具

流麻二果　Manika Nagare

1975年、大阪生まれ、香川育ち。
女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒。
日本の色彩文化のルーツを多角的に捉えながら、独自の色彩感覚で油彩表現の幅を拡張し続け、建築空間の色彩監修をはじめさまざまなジャンルとのコラボレーションやダンスパフォーマンスなど国内外で幅広く活動している。
2002年文化庁新進芸術家在外研修員（アメリカ）、2004年ポーラ美術振興財団在外研修員（アメリカ・トルコ）。

主な展覧会に「VOCA展」上野の森美術館（2000年・2006年）、「絵画を抱きしめて」資生堂ギャラリー（2015年）、「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.05『見えてる風景／見えない風景』」高松市美術館（2016年）、「その光に色を見るSpectrum of Vivid Moments」ポーラ ミュージアム アネックス、高梁市成羽美術館（2022年）、「カラーズ ― 色の秘密にせまる　印象派から現代アートへ」ポーラ美術館（2024年）など。
パブリックコレクションに高松市美術館、練馬区立美術館、Jordan Schnitzer Museum of Art（アメリカ）、University of Michigan Museum of Art（アメリカ）、Kocaeri University Museum（トルコ）など。

https://manikanagare.com/



「毅然と」2025
キャンバスに油彩

西島雄志　Yuji Nishijima

1969年神奈川県生まれ。
1995年に東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了。
神話に縁の深い動物を題材に、渦状に巻いた銅線のパーツを繋げ、彫刻やインスタレーションを発表している。
2021年に拠点を群馬に移し、gallery newrollを主宰。
2024、2026年に「Art Fair NAKANOJO」を企画開催。

主な展覧会に「瑞祥 Zui-shou - 時の連なり-」（2023年、ポーラ ミュージアム アネックス）、主なグループ展に「中之条ビエンナーレ」（2011～2025年、群馬）、「都美セレクション展」（2021年、東京都美術館）、「プレBIWAKOビエンナーレ」（2022年、二条城、京都）、「富士の山ビエンナーレ」（2024年、静岡）、「瀬戸内国際芸術祭」（2025年、香川）、BIWAKOビエンナーレ（2022～2025年、滋賀）などがある。

https://yuji-nishijima.com/



「環 −吉祥−」2025
銅（ニッケルメッキ）、ステンレス

野口哲哉　Tetsuya Noguchi

1980年香川県生まれ。
2005年に広島市立大学大学院を修了。
鎧と人間をテーマに、時代や文化が交雑する世界観を構築する美術家。
精巧に制作された人びとの姿は、ユーモアを感じさせながらも詩情を湛える。
「Samurai」（大英博物館、2026年）、「鎧を着て見る夢-ARMOURED DREAMER-」（箱根彫刻の森美術館、2025-2026年）、「シン・ジャパニーズ・ペインティング」（ポーラ美術館、2023年）、巡回展「THIS IS NOT A SAMURAI」（2021-2022年）、「野口哲哉展」（練馬区立美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館、2014年）、「医学と芸術：生命（いのち）と愛の未来を探る」（森美術館、2009年）等。

https://www.gyokuei.tokyo/



「KAGA TYPE」2025
樹脂、布、ラッカー絵具

林 樹里　Julie Hayashi

1989年 大阪府生まれ。
2013年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
2015年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻（保存修復日本画）修士課程 修了。
2018年 同大学院博士課程 修了。博士号（文化財）取得。
2023年 ポーラ美術振興財団在外研修員（イギリス）。

「おのずからなるもの」をテーマに、日本絵画の伝統的な技法や材料を用い、素材や環境の作用による偶発的な表現を取り入れながら自然や場所と対話するように制作する。さまざまな土地を訪れ、そこで感受する音や形になる以前の微かな気配のようなものを「さわり」と呼び、作品にしている。

主な個展に「あらわれの手前、さわりをすくう」（YUKIKOMIZUTANI、東京、2026年）、「風声」（建仁寺霊源院、京都、2025年）、「noise in the shadow」（Fitzrovia Gallery、ロンドン、2024年）、「bruit dans l'ombre」（Galerie Du Forez、パリ、2023年）など。

https://www.juliehayashi.com/



「かげちかづきて、しろみかかる ［Kurohime］」2026
雲肌麻紙、金箔、墨、岩絵具

ヒグチユウコ　Yuko Higuchi
画家

https://higuchiyuko.com/



「はながさく」2025
和紙、ペン、水彩、糸、綿

福井利佐　Risa Fukui
1975年静岡県出身。
多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。切り絵アーティスト。
中島美嘉のCDジャケットアートワーク、直木賞作家の桐野夏生氏、木内昇氏の小説への挿画や装丁、NHK「猫のしっぽカエルの手」オープニングタイトル制作などがある。
宝生流家元主催の「和の会」参加（2008-2018）。
福音館書店「かがくのとも」から月刊かがく絵本「むしたちのおとのせかい」「からまつ」「みずたまりのいきもの」担当(2019-2025)。
2013年「Life-Sized」ポーラ ミュージアム アネックス（東京）にて個展。
2024年小学校の図工の教科書 ずがこうさく1.2下「みつけたよ」（開隆堂出版）登場。

http://risafukui.jp/



「New born」2025
紙、アクリル絵具

増田セバスチャン　Sebastian Masuda
1970年生まれ。ニューヨーク在住。
1990年代前半より演劇や現代美術に関わり、1995年に表現の場としてのショップ「6%DOKIDOKI」をオープン。一貫した独特な色彩感覚からアート、ファッション、エンターテインメントの垣根を越えて作品を制作。きゃりーぱみゅぱみゅ「PONPONPON」MV美術など、世界にKawaii文化が知られるきっかけを作った。世の中に存在する全ての事象をマテリアルとして創造しつづける。

主な個展に、2022年「COLORS FOR PEACE」(Mizuma & Kips、ニューヨーク)、2024年「Yes, Kawaii Is Art -EXPRESS YOURSELF-」(Japan House Los Angeles)、2026年「KAWAIITOPIA -GO TO HEAVEN(HELL)-」(ハイパーミュージアム飯能)、「ENDLESS COLORS」(西武渋谷店 美術画廊)など。

文化庁文化交流使、ニューヨーク大学客員研究員を歴任。2019年 Newsweek Japan 世界が尊敬する日本人100人。

https://sebastianmasuda.com/



「Inside and: Bloom」2025
写真用紙 / インクジェットプリント、木製パネル、レース、プラスチックビーズ、グリッター、接着剤

水野里奈　Rina Mizuno
1989年愛知県生まれ。
作者本人でさえ驚くような作品であれば観覧者からはもっと大きな驚き以上の何かが生まれるのではないかと期待し、「見ても見きる事の出来ない」絵画を目指している。

主な個展に「アトリエの景色」（2023年、新宿髙島屋）、「Garden」（2023年、六本木ヒルズ A/Dギャラリー）、「みてもみきれない。」（2020年、ミヅマアートギャラリー）、「思わず、たち止まざるをえない。」（2019年、ポーラ ミュージアム アネックス）等、主なグループ展に「異文化は共鳴するのか？ 大原コレクションでひらく近代への扉」（2024年、大原美術館）、「現代美術のポジション 2021-2022」（2021-2022年、名古屋市美術館）など。
愛知県芸術文化選奨・新人賞（2022）、VOCA奨励賞（2015）などを受賞。
パブリックコレクションに大原美術館、愛知県美術館、名古屋市美術館、パブリックアートに三菱地所、第一生命保険株式会社などがある。

https://www.rinamizuno.com/



「次々に芽吹く花」2025
キャンバスに油彩、刺繍糸、ビーズ

ミヤケマイ　Mai Miyake

2008年にパリ国立高等美術大学大学院に留学。
日本古来より現代に続く独自の感性を織り込んだ作品を用い、物事の本質や表現の普遍性を問い続ける作家。
媒体を問わない表現方法を用いて骨董・工芸・現代美術、文芸などの領域を横断し、作品は絵画のみならず、インスタレーション、立体、プロダクト、小説や詩まで表現領域は多岐にわたり、伝統と革新の間を天衣無縫に往還。

主な展示:21世紀美術館、OPAM、水戸芸術館、ポーラ美術館、釜山市立現代美術館、神奈川県民ホールギャラリー、千葉市美術館。
「お休みなさい。良い夢を」講談社、「色Colors」など短編2冊と、最新の作品集「反射 yin-yang」計6冊の作品集が出ている。
EXPO2025 大阪・関西万博会場（静けさの森ゾーン 東側休憩所）にて作品展示。
「大人の寺小屋余白」主宰。

http://www.maimiyake.com/



「地固まり芽がでる」2025
黒柿、陶土

横溝美由紀　Miyuki Yokomizo

1968年東京都生まれ。多摩美術大学彫刻科卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員。
1990年代からプラスチックなど身近な素材を使い、光に満ちたミニマルなインスタレーションを国内外で発表する。近年はインスタレーションを平面に置き換えた作品とインスタレーションを組み合わせた新たな風景の創出を試みている。

主な展示に「プラスチックの時代」（2000年、埼玉県立近代美術館）、「傾く小屋」（2002年、東京都現代美術館）、「盗まれた自然」（2003年、川村記念美術館）、「未来への回路―日本の新世代アーティスト」（2004-19年、国際交流基金）、「Landscape やわらかな地平のその先に」（2021年、ポーラミュージアム アネックス）、「ABSTRACTION抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビスムから現代へ」（2023年、アーティゾン美術館）などがある。

http://miyukiyokomizo.net/



「line S004.363.2025」2025
油彩、キャンバス、フレーム

Ryu Itadani

1974年大阪生まれ
大阪からトロント、東京、ロンドンの生活を経て、現在はベルリン在住。
住んでいる街や旅先の風景、部屋にあるモノや花。
何気ない毎日で見つけた喜び、美しさを自由な線でとらえて、色彩豊かに描く。

https://ryuitadani.com/



「Dandelion」2025
Acrylic on Canvas

渡辺おさむ　Osamu Watanabe

1980年生まれ。
工芸菓子の技法をアートに取り入れ、樹脂を用いて様々なものにお菓子のデコレーションをする現代美術作家。
本物そっくりのカラフルで精巧なクリームやキャンディ、フルーツなどを用いた作品は、国内外で注目を集め話題を呼ぶ。
主な展覧会に「渡辺おさむOHARA-DECO」（2012年、大原美術館）。
パブリックコレクションに、大原美術館、清須市はるひ美術館、高崎市美術館など。

http://watanabeosamu.tokyo/



「Sweet ambrosia」 2025
FRP、モデリングペースト、樹脂、鏡、木